

箱館奉行と箱館奉行所



嘉永6	嘉永7 安政元 11/27~ 1853	安政2 1855	安政3 1856	安政4 1857	安政5 1858	安政6 1859	安政7 万延元 3/18~ 1860	万延2 文久元 2/19~ 1861	文久2 1862	文久3 1863	文久4 元治元 2/20~ 1864	元治2 慶応元 4/7~ 1865	慶応2 1866	慶応3 1867	慶応4 明治元 9/8~ 1868	明治2 1869	明治3 1870	明治4 1871	
											6/15五稜郭へ奉行所移転		五稜郭全建物完成	11月大政奉還	10/26榎本軍入城 戊辰の役	5/18榎本軍開城 己巳の役			奉行所解体終了
				(4月)			五稜郭建設		(秋) 奉行所建設	(4月)									

箱館奉行

一	竹内(清太郎)保徳	6/30-	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1/20											嘉永6年ペリー来航後,内海台場普請掛などを務め,安政元年日米和親条約付録を全権として調印後,箱館奉行に就任。翌2年箱館の防御につき幕府へ建言。
二	堀(織部・利忠)利熙	7/21-	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	--11/20											箱館奉行在任中に世界の大勢を知り通商互市の開始を進言、露使応接掛として「チャーチン」と交渉し日露通商条約締結に調印した。
三	村垣(與三郎・範忠)範正			7/28-	- - -	-10/9													安政元年勘定吟味役となり,海防掛・松前蝦夷地掛として北蝦夷地を視察。同年帰府後,露国「チャーチン」再来時に応接掛として下田で交渉。同3年箱館奉行に就任。同5年外国奉行を兼任し,翌6年神奈川奉行,次ぎ勘定奉行も兼任。
四	村垣(與三郎・範忠)範正					10/11-	- - -	- - - -	-7/6										安政2年箱館の防御につき竹内らと幕府へ建言。
五	津田(半三郎)正路					10/11-	- - -	- - - -	-7/5										増加する外国人と大町築出地居留地問題に腐心。
六	勝田(次郎)充							9/7-	- - - -	-7/5									
七	糟度義明								6/21----	12/28									
八	水野忠徳								7/13-9/3										文久元年外国奉行,次いで小笠原島開拓御用掛を兼ね,同地を視察。公武合体方針に反対し,箱館奉行に任じられるが,拒否し隠居。
九	小出(修理・実)秀実								9/7-	- - -	- - - -	- - -	- - -	-7/27					文久2年9月箱館奉行。アイヌ人骨盗掘事件で英国に強行抗議。五稜郭箱館奉行所完成に伴い役所を移転。外国奉行として,露国と談判。
十	新藤鋁蔵									12/14	- - - - -	- - -	- - -	-----	10/23				
十一	杉浦誠												1/18--	-----	4月				日露国境問題,アイヌ人骨盗掘問題,蝦夷地開拓のための西洋農法導入問題などの外交折衝に対応。奉行所を明治政府へ無事明渡。経験を買われ明治2年開拓使の開拓権判官となり箱館在勤。
十二	栗本(瀬兵衛)鯤													6/5-----					元奥医師。嘉永5年箱館に移住。山野の開拓,病院の造成などに力を注ぐ。別名,栗本鋤雲(シヨウウン)。
十三	織田(市歳)信重													9/6-----	2/12				
十四	橋本悌裁															2/12-4月			

「箱館奉行所」は俗称で,「箱館御役所」が正式名である。
(建設中は「亀田御役所」と称した)

箱館奉行は,江戸1,箱館1の2人体制でスタートしたが,管轄範囲が広いとため蝦夷地巡視のため1人増加し,3人体制となり,外国奉行と兼務する者があったため一時4人体制をとった。